



平成16年度第2回青森県理学療法士会理事会議事録要約

日時：平成16年6月18日（金）午後6時30分～9時30分
場所：青森県立保健大学

案件：

会議報告

第33回総会及び代議員会報告：ニュース No.256 参照

各部局報告

1)事務局

(敬称略)

<異動>

転出：高橋真由美（国立青森病院） 岩手県士会へ
中村哲也（東北メディカル学院） 宮城県士会へ
佐藤康子（黎明郷リハ病院） 山梨県士会へ

転入：小山田香（神奈川県士会） 自宅（青森市）へ

県内移動：増田麗子（さくらだ整形外科クリニックへ）、木野美也子（サンライフ豊寿苑へ）
渡邊文郎（じけいかい訪問看護ステーションへ）、工藤洋平（青森労災病院へ）
鈴木純江（あらい整形外科へ）

改正：鳥谷部明子 濱欠明子

<委員推薦>

津軽地域保健・医療・福祉包括ケアシステム推進会議委員 須藤真史（継続）

青森県介護実習・普及センター活動事業運営委員会委員 小村博（継続）

青森県介護支援専門員支援会議委員 勘林秀行（継続）

青森県保健医療福祉包括ケア推進委員会 中村正直 川口徹へ

<後援依頼>

青森県社会福祉士会：平成16年度介護支援専門員受験対策講座・模擬試験

青森県介護福祉士会：第11回日本介護福祉士会北海道・東北ブロック研修会

第6回弘前脳卒中治療カンファンス

青森県臨床心理士会：第10回記念公開講座「子どもと生きる」

ケア付き青森ねぶた実行委員会：第9回「じょっぱり隊」開催後援

県立保健大学オープンキャンパス

2) 学術局

1. 現職者講習会についてはニュース案内通り
2. 特別講習会 10月23日～24日、県立保健大学を予定
テーマ：脳の機能解剖と運動学に基づく脳血管障害の理学療法
講師：吉尾雅春先生（札医大教授）
3. 症例検討会（旧、定例研修会）12月5日弘前市にて予定
前日（12/4）は、研修会（テーマ：レクリエーションについて（仮）、講師は仙台医療福祉専門学校の先生を予定）と忘年会の予定
4. 県士会学会（学会長：山谷光仁、準備委員長：村上三四郎）は平成17年3月12～13日予定
5. その他研修会予定
9月4日上十三ブロック担当にて、東北メディカル学院を会場にして開催予定
6. 助成研究について
6月17日現在で1件の応募有り、近日中に選考委員会を立ち上げ7月初旬には決定予定
7. 理学療法研究第22号について
現在内容について検討中、予定通り来年3月の発行に向けて準備中

3) 社会局

国際交流部：韓国水原市物理治療士会からの返事待ち
9月の現職者講習会時の来青について打診中

4) 外交局

理学療法週間：スポーツPT公開講座を開催
ポスターを各施設へ配布
いきいきあおもり理学療法第2号を発行予定
ホームページ管理を業者委託し内容及び更新の充実を図る

5) その他

ぴんぴんすこやか事業に係る「高齢者杖なし支援塾開催事業」を県より委託契約した。
主担は、県立保健大学の三浦雅史氏にお願いした。

協会より：映画「ウィニングパス」を東北ブロック内で開催できないか 予算は100万円
会場費は士会で負担

第4回全国障害者スポーツ大会車椅子バスケットボール競技 東北・北海道ブロック大会
6月26～27日、青い森アリーナで開催に伴い協力を依頼されている。
あすなる学園の須藤崇氏が対応

名義後援の依頼

平成16年9月22日ばるるプラザ青森で上映予定の映画「わらびのこう 蕨野行」

車椅子バスケットボール大会スポーツ理学療法サポート報告

去る6月26日(土)、27日(日)の両日にかけて、第4回全国障害者スポーツ大会車椅子バスケットボール競技北海道・東北ブロック大会が、青森市にある新青森県総合運動公園青い森アリーナを舞台に、その熱戦が繰り広げられました。参加チームは全部で9つあり、この中で11月に埼玉県で開催される国体に出場できるのはわずかに1チームのみ。そのたった一枚の出場権の切符をかけ、どのチーム、いずれの選手も気迫あるプレーを展開し、スポーツのもつ可能性と魅力を輝かせていました。

今回我々は、青森県障害者スポーツ指導員会の依頼を受け、大会期間中のスポーツ理学療法サポートを実施することとなりました。準備期間も短く、また必要物品のほとんどを持ち込みで行わざるを得ず、行き届いたサポートとはいえない環境にありましたが、参加頂いた諸先生の力強い協力のもと、なんとか運営することができたと思いません。

利用いただいた選手は2日間で延べ13名、処置部位のほとんどは肩関節周囲で、オーバーユースによる痛みや筋の過緊張でした。処置内容としては、疲労回復や痛みの緩和を目的としてストレッチ、マッサージ、アイシングを中心に行いました。接触プレーやその後の転倒による肩甲帯や上肢の打撲、上肢の酷使からくる上腕二頭筋の肉離れなど、日頃の練習や過去の大会で受傷したものが十分に治っておらず、慢性スポーツ外傷として

あすなる学園 須藤 宗

パフォーマンスに影響していることが多く、肩や上肢に対するテーピングの依頼も少なからずありました。この車椅子バスケットボール大会に対し、正式にスポーツ理学療法サポートが参加したのは今大会が初めてということでしたが、概ね好評を頂けたのではないかと思います。

昨今、競技スポーツにおけるメディカルサポートの重要性が高まる中、色々な職種の方達が、その知識と技術をいかしアスリートをサポートしていますが、競技としての障害者スポーツの分野では、まだまだその認識が薄く、選手自身の意識も低いのが現状です。アスリートを目指す障害者、特に身体障害者や内部障害者の健康を守るためには、ある程度の医学的知識が必要であり、他でもなく理学療法士の存在が求められている世界だと思えます。障害者スポーツを理学療法士会としてバックアップできる組織体制ができれば、世界を目指すトップアスリートに、より専門的なサポートを提供できるのではないかと、一方で障害者スポーツの底辺の拡大にもつながるのではないかと、そういう可能性を感じさせる大会でした。

最後に、今回ご協力頂いた菊池修一先生(あおもり協立病院)、対馬新吾先生(ときわ会病院)、和久井鉄城先生(県立保健大学院)、間所昌嗣先生(青森整形外科クリニック)、伊藤紗岐子先生(青森市民病院)、また貴重なアドバイスを頂きました伊藤和夫会長、三浦雅史先生(県立保健大学)に深謝致します。

クリニカルリ - ズニング（臨床的推論）ワークショップに参加して

弘前記念病院 武田さおり

7月31日（土）・8月1日（日）の2日間にわたりクリニカルリ - ズニング（臨床的推論）応用編に参加しました。今年は例年になく猛暑の中、教室には扇風機のみという過酷な（？）環境の中研修会が行われました。講師の Kathrn Refshauge を含めて研修を受けた皆さんも大変だったと思います。お疲れ様でした。

研修の内容は、英語での自己紹介に始まり症例による演習・グループワーク形式の演習、マニュアルセラピー実技、めまいに関する講演など充実していました。ひとつ残念だったのは前回の「基礎編」に参加していなかったため臨床的推論の概念・理論について十分理解しないまま参加してしまったことです。今回は演習中心の内容で、筋骨格系障害の事例を用いて臨床的推論過程を個人・グループ・全体を通して討論方式で進められました。事例演習では自分の知識のなさを痛感させられる結果となりました。自分で必要な情報を収集することはできてもそれを分析する知識が不十分で結局は”これだ”というものにしぼりきれず、日頃いかに医師による処方箋の”診断名”をあてにしていたかがわかりました。それでも研修会の前後では臨床的推論を行っていく過程について、少しは理解できた気がしました。

今回は本当に自分の未熟さを痛感した研修会でしたが、その分大変勉強になった研修会でもありました。機会があれば是非また参加したいと思います。皆さんも是非参加してみてください。

スポーツ講演会参加印象記

なかざわスポーツクリニック 葛間 翔

7月31日（土）、当院において「成長期のスポーツ障害・外傷の予防」というテーマで、講演会が開かれました。

- ・ 成長期に多いスポーツ障害・外傷の紹介
- ・ 疾患の特徴
- ・ 各疾患の予防法（運動前後のアップ、ストレッチ等）

という内容で講演が行われました。

各学校の教職員、部活動の顧問の方、指導員の方々が、なかざわスポーツクリニック（以下 NSC）に訪れ、講演に耳を傾けていました。講演後の質疑応答では多くの質問があり、次のようなものがありました。

Q Dr サイドではスポーツに関するケガに対し、治療面では日常レベルをゴールとしているのか？それともスポーツ復帰をゴールとしているのか？

A 日常レベルをゴールとしている Dr もいれば、スポーツ復帰をゴールとしている Dr もいる。Dr サイドにもバラつきが見られるため、その辺を確認する必要がある。

少子化の影響により、親が子を思う気持ちは強く、フィールドでの対応という面で、どのように考えているのか？という質問もありました。院内だけの治療に留まらず、フィールドで活躍する PT の必要性が増加傾向にあり、私たち PT がどれだけ現場で必要とされているのか実感させられました。今後は院内での治療だけでなく、フィールドにおいて監督やコーチ、マネージャー、トレーナーとの連携を図り、治療・コンディショニング・予防等のフィジカル面や、不安・葛藤といったメンタル面等にも対応し、スポーツ理学療法として活躍していける PT になっていきたいと思いました。

第26回臨床歩行分析研究会定例会プログラム

テーマ

「歩行分析のさらなる展開をめざして」

1. 会 期 平成 16 年 11 月 14 日 (日)
2. 会 場 青森県立保健大学 講堂
〒 030-8505 青森県青森市浜館間瀬 58-1
Tel : 017-765-2000 (代表)
3. 会長 福田道隆 (青森県立保健大学)
4. 参加費 (当日会場にて徴収いたします)
会員 5,000 円、非会員 6,000 円、学生 1,000 円

5. プログラム

8:30 ~ 受付開始

9:30 ~ 一般演題

11:00 ~ 特別講演

「運動制御と運動学習の脳内メカニズム」

講師 蔵田 潔先生

(弘前大学医学部医学科生理学第二講座教授)

座長 福田道隆 (青森県立保健大学)

13:00 ~ シンポジウム

「歩行分析セミナーの現場での実践応用」

座長 山本澄子 (国際医療福祉大学)

シンポジスト

医師の立場から

小原和宏 (旭川医科大学)

公設試エンジニアの立場から

宮脇和人 (秋田県工業技術センター)

企業エンジニアの立場から

刈谷健司 (住友林業)

理学療法士の立場から

櫻井愛子 (昭和大学)

義肢装具士の立場から

飯塚 尚 (東名ブレース)

基調報告者

講師の立場から

江原義弘 (新潟医療福祉大学)

ポスター展示 (セミナーでの 3 次元動作解析装置を用いた運動解析例を多数公開)

* ポスターは終日展示

14:45 ~ 一般演題

* 企業展示とデモンストレーションは終日開催

6. 事務局

〒 030-8505 青森県青森市浜館間瀬 58-1

青森県立保健大学理学療法学科内 (佐藤、前野)

Tel:017-765-2098、Fax:017-765-2099

E-mail:s_sato@auhw.ac.jp

第29回青森県理学療法士学会のご案内

第29回青森県理学療法士学会
会 長 山谷 光仁
準備委員長 村上三四郎

記

会 期：平成17年3月12日（土）、13日（日）
会 場：十和田市民文化センター
十和田市西三番町 2 - 1
TEL 0176-22-5200

内 容：公開講演
演 題 『歴史に学ぶ健康と障害-そして生活支援』
講 師 青森県立保健大学教授 伊藤日出男先生
一般演題

第1日目終了後、総会を開催致します。また、その後、懇親会を開催いたします。会員の皆様には多数ご出席のほどお願い申し上げます。

今学会では、韓国水原市物理治療士会との交流会も予定されています。従いまして、具体的スケジュールに関しましては、今しばらくお待ち下さるようお願いいたします。

また、今学会にて発表を予定されております会員の皆様には、大変申し訳ありませんが、演題募集要項は次ニュースに掲載いたしますので、宜しくをお願いいたします。

理学療法研究第22号（2005年3月発行予定）の投稿募集のご案内

学術局学術誌編集部 長谷川 至

理学療法研究第22号（2005年3月発行予定）の原稿を募集致しております。投稿を希望される方は、理学療法研究第21号の投稿規定および執筆要綱 P51～53 をご覧頂き、締め切り日までに原稿を下記投稿先に郵送にてお送り下さい。尚、投稿原稿のフロッピーディスクについては、校閲後にあらためて提出（11月上旬）して頂きますので、その旨よろしくお願い致します。

投稿締切日：2004年9月30日（木）必着

投稿先・問い合わせ先
〒036-8564 弘前市本町 6 6 - 1
弘前大学医学部保健学科理学療法学専攻内
青森県理学療法士会学術局 学術誌編集部 長谷川 至 宛
TEL & FAX： 0172-39-5981
E-mail： pthase@cc.hirosaki-u.ac.jp

第30回青森県理学療法士会定例研修会改め 青森県理学療法士会症例検討会のご案内

学術局長 長谷川 至
研修部 佐井川 匠秀

例年開催しておりました「青森県理学療法士会定例研修会」ですが今年度はその名称を「青森県理学療法士会症例検討会」に変更し開催することとなりました。

発表者による話題提供をもとに、ディスカッション形式をとりながら大いに日頃の悩みや、経験談を語り合える場にしたいと思います。

つきましては、会員の皆様より広く演題の募集を致します。例年新人会員中心としてまいりましたが、先輩会員の皆様にも、日頃の臨床活動の成果や疑問について発表する機会として大いに活用して頂きたいと思えます。尚、本会の発表者には新人教育プログラム「症例検討」の単位、参加者には「症例検討」の単位がそれぞれ認定されます。

- 記 -

と き：平成16年12月4日(土)・5日(日)(予定)(演題数により期間短縮あり)

と ころ：弘前大学医学部保健学科

参加費：500円

申込先：(医)芙蓉会芙蓉会病院 理学療法室

佐井川 匠秀

TEL:017-738-2214 FAX:017-738-2249

E-mail:fuyo-rigaku236@fuyoukai.or.jp

締 切：平成16年10月8日(金)

発表希望者の方へ

発表内容は症例報告に限らず、日頃の業務に関する悩みなどをまとめて頂いてもかまいません。締切までの抄録の作成は不要ですが、上記期日までに発表の意志、できれば(仮)タイトルをお知らせ下さい。

訂正とお詫び

前回発行された県士会ニュース(No.257)の中で誤りがありました。7ページの研修会名で「平成16年度第4回青森県理学療法士会研修会のお知らせ」の中で「第4回」と表記していましたが、「第2回」の誤りでした。その点を訂正し、お詫び致します。

【財務部通信】

会費自動引き落とし者へ

平成16年度の自動引き落としが 5月27日(木)に行われました。 引き落とし不能者 と 引き落とし以外者 は下記へ振り込みをお願いします。

会費納入方法は下記の通りです。

士会費 12,000 円の振込先 振込み手数料 210 円

みちのく銀行 黒石支店 店番 024 口座番号 0117013
名義名 青森県理学療法士会 代表者 佐藤 洋

協会費 11,000 円の振込先 振込み手数料 120 円

郵便振替で 口座番号 00130-3-78642
加入者名 社団法人 日本理学療法士協会

通信欄に

記入例 平成16年度会費 1名分 佐藤洋 8692 協会会員番号
と記入して下さい。払込人住所氏名は、施設名の住所氏名で結構です。

尚、領収証が必要な方は、下記へ御連絡下さい(昨年、連絡を下さった施設には入金を確認できれば送付します)。また、どうしても6月15日まで納入できない人は、自動引き落としにして下さい(振込手数料無料、公共料金と同じく忘れなくて済む)。どうぞ御協力をお願いします。

不明な点は 黒石病院リハビリテーション科

佐藤 洋

TEL 0172-52-2121(217)

原稿受付に関するお知らせ

ニュース編集部の東青・むつ下北支部担当が以下の通りに変更となっております。連絡先をお確かめの上、お問い合わせまたは原稿の送付をお願い致します。ご不明な点などにつきましては、編集部長または各支部担当者までお問い合わせください。

【ニュース編集部通信】

次回の原稿締切は、平成16年9月22日(水曜日)です。

原稿を依頼された方、もしくは掲載記事をお持ちの方は、次頁の各支部担当にフロッピーディスク、FAX、E-mailのいずれかにて、送付して下さい。

青森県士会ホームページアドレス

<http://www.aa.alpha-net.ne.jp/ptaomori/>

§ ニュース編集部支部担当者 §

東青・むつ下北：工藤 寛教(あおもり協立病院)

〒030-0852 青森市大野前田103-2 TEL 017-762-5500 FAX017-729-3260

E-mail: kyoritsu@aomori-h-coop.com

(病院全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

三八・上十三:川口 恵理 (シルバー病院)

〒039-1161 八戸市河原木字八太郎山 10-444 TEL 0178-28-4000 FAX 0178-20-4962

E-mail : ptsilver4000@yahoo.co.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

中弘南黒・西北五:藤田 俊文 (黎明郷リハビリテーション病院)

〒038-0194 南津軽郡碓ヶ関村碓ヶ関字湯向川添 30 TEL 0172-45-2231 FAX 0172-45-2373

E-mail : reimeipt@h7.dion.ne.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

事務局ニュース編集部長 ; 梅村 孝博 (東北メディカル学院)

〒039-1522 五戸町字苗代沢 3-6 TEL 0178-61-0606 FAX 0178-61-0034

E-mail : pt.umemura@rinken.ac.jp

編集委員 ; 伴 久美子 (黒石病院)

須藤 宗 (あすなる学園)

藤田 俊文 (黎明郷リハビリテーション病院)

川口 恵理 (シルバー病院)

豊嶋 大輔 (八戸城北病院)

佐々木幸重 (十和田東病院)

外交局広報部 (HP 担当) ; 安田 友久 (青森労災病院)

編集後記

最近、世間ではオリンピック一色となり、寝不足の方も多いのではないのでしょうか？私ももうすぐ3ヶ月になる娘の夜泣きに付き合いながら、連日連夜メダルラッシュに感動しています。鳥肌の立つようなシーンがたくさんある一方で前評判の大きかった種目程、結果を残せずにいるように感じます。プレッシャーというものが人間に与える影響は非常に大きく日頃の訓練でもメンタル面は大事にしなければと思います。もう1つは、注目されるスポーツと荘でないスポーツがあるのが残念です。オンタイムで行っている競技があるのに金メダルのダイジェストが流れたり・・・。バスケットボール女子が大接戦をやっているのに野球のダイジェストが流れたり・・・。バスケットを最初から見たかったなあ。みなさんはどうですか？

(文責: 豊嶋)

奥付

編集 ; 青森県理学療法士会

発行 ; PT 事務局・ときわ会病院リハビリテーション科内

〒038-1216

南津軽郡常盤村榊字亀田2-1

PHONE・FAX 0172-65-3698

E-mail ; ptaomori@m16.alpha-net.ne.jp